

2016年3月期決算説明会

2016年5月10日
株式会社エフテック
東証1部:7212
<http://www.ftech.co.jp>

1. 決算概要
2. 業績予想
3. 企業情報
4. 経営戦略
5. トピックス



代表取締役社長
福田 祐一

1. 決算概要
2. 業績予想
3. 企業情報
4. 経営戦略
5. トピックス



代表取締役社長
福田 祐一

連結決算概要(前年同期比)



(単位:百万円)

	2015年3月期 実績		2016年3月期 実績		増減	
売上高	175,579	100.0%	196,343	100.0%	20,763	11.8%
営業利益	5,564	3.2%	6,821	3.5%	1,256	22.6%
経常利益	5,791	3.3%	6,182	3.1%	390	6.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,772	1.0%	2,704	1.4%	932	52.6%
1株利益(円)	115.42	—	176.14	—	60.72	52.6%

為替

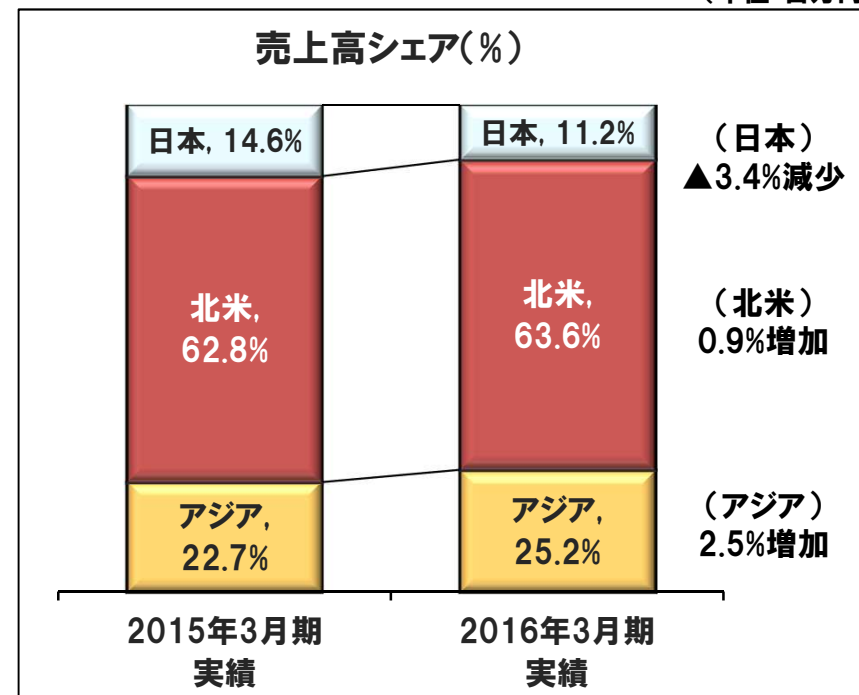
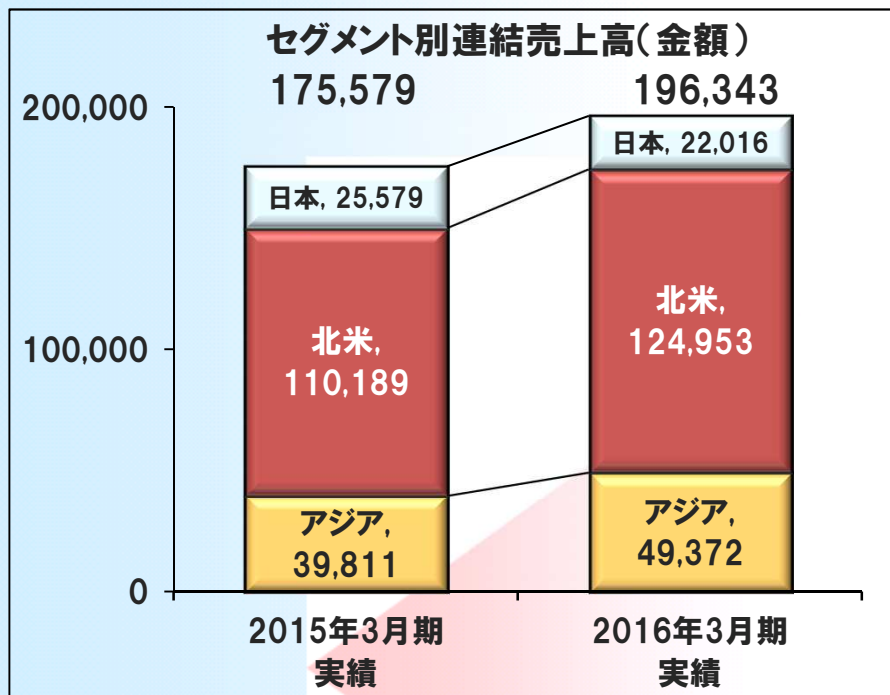
	2015年3月期	2016年3月期	増減額
1US\$	110.64円	120.15円	9.51円
1CAN\$	96.66円	91.78円	▲4.88円
1人民元	17.25円	19.19円	1.94円

増収増益(海外拠点の増収増益に加え円安影響)

連結売上高(前年同期比)



(単位:百万円)



連結売上高増減

	'15年3月期	'16年3月期	増減	増減率	為替影響	実質増減	増減率
日本	25,579	22,016	▲3,562	▲13.9%	—	▲3,562	▲13.9%
北米	110,189	124,953	14,764	13.4%	3,826	10,938	9.9%
アジア	39,811	49,372	9,561	24.0%	5,154	4,407	11.1%
連結	175,579	196,343	20,763	11.8%	8,980	11,783	6.7%

海外の売上高が増加、連結売上上の88.8%が海外セグメント

セグメント別営業利益(前年同期比)



(単位:百万円)

	2015年3月期 実績		2016年3月期 実績		増減額	増減率
	営業利益	地域シェア	営業利益	地域シェア		
日本	434	7.8%	381	5.6%	▲52	▲12.0%
北米	4,635	83.3%	4,675	68.6%	40	0.9%
アジア	758	13.6%	2,069	30.3%	1,310	172.7%
合計	5,828	104.7%	7,126	104.5%	1,298	22.3%
調整	▲264	▲4.7%	▲305	▲4.5%	▲41	—
連結	5,564	100.0%	6,821	100.0%	1,256	22.6%

1. 決算概要
- 2. 業績予想**
3. 企業情報
4. 経営戦略
5. トピックス



**代表取締役社長
福田 祐一**

連結業績予想(2017年3月期予想)



(単位:百万円)

	2016年3月期 実績		2017年3月期 予想		増減	
売上高	196,343	100.0%	192,000	100.0%	▲4,343	▲2.2%
営業利益	6,821	3.5%	6,500	3.4%	▲321	▲4.7%
経常利益	6,182	3.1%	6,200	3.2%	17	0.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,704	1.4%	2,800	1.5%	95	3.5%
1株利益(円)	176.14	—	182.34	—	6.20	3.5%

為替

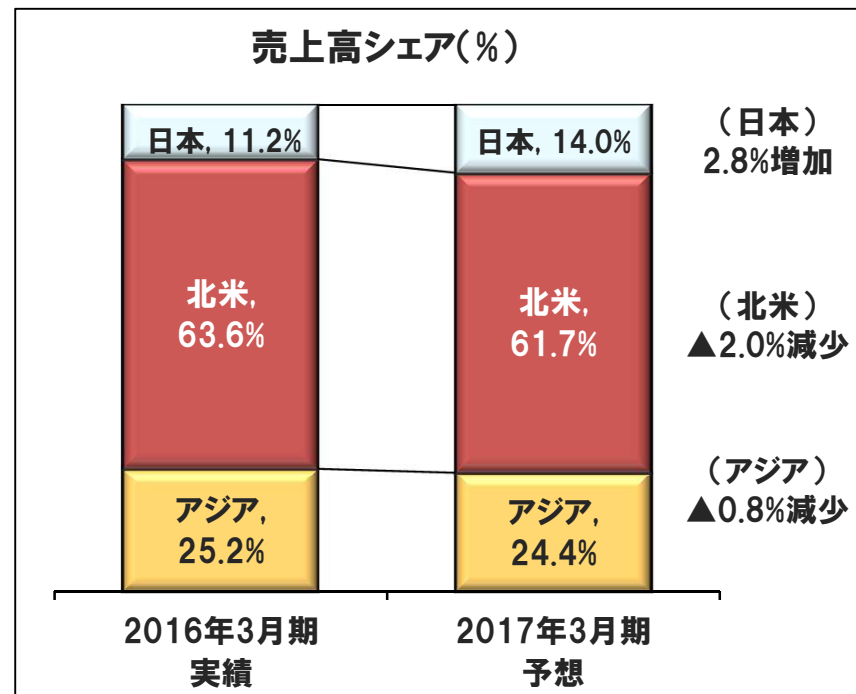
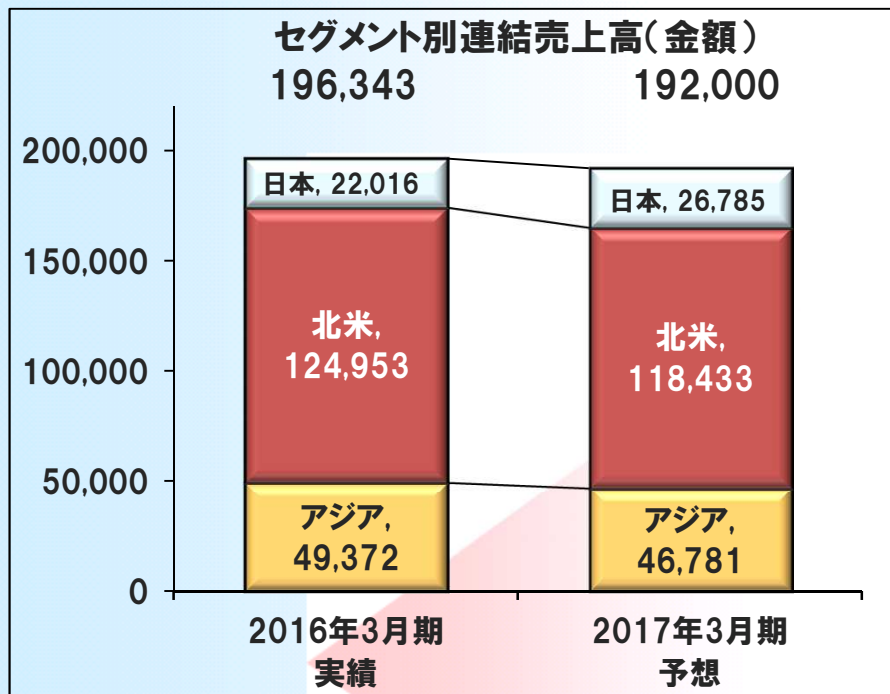
	2016年3月期	2017年3月期	増減額
1US\$	120.15円	108.00円	▲12.15円
1CAN\$	91.78円	85.00円	▲6.78円
1人民元	19.19円	16.60円	▲2.59円

減収減益(為替換算影響大だが、実質は増収増益)

連結売上高(2017年3月期予想)



(単位:百万円)



連結売上高増減

	'16年3月期	'17年3月期	増減	増減率	為替影響	実質増減	増減率
日本	22,016	26,785	4,768	21.7%	—	4,768	21.7%
北米	124,953	118,433	▲6,520	▲5.2%	▲13,522	7,002	5.6%
アジア	49,372	46,781	▲2,591	▲5.2%	▲7,997	5,406	10.9%
連結	196,343	192,000	▲4,343	▲2.2%	▲21,519	17,176	8.7%

前期比円高影響により減収、日本セグメントのシェアが増加(11.2%→14.0%)

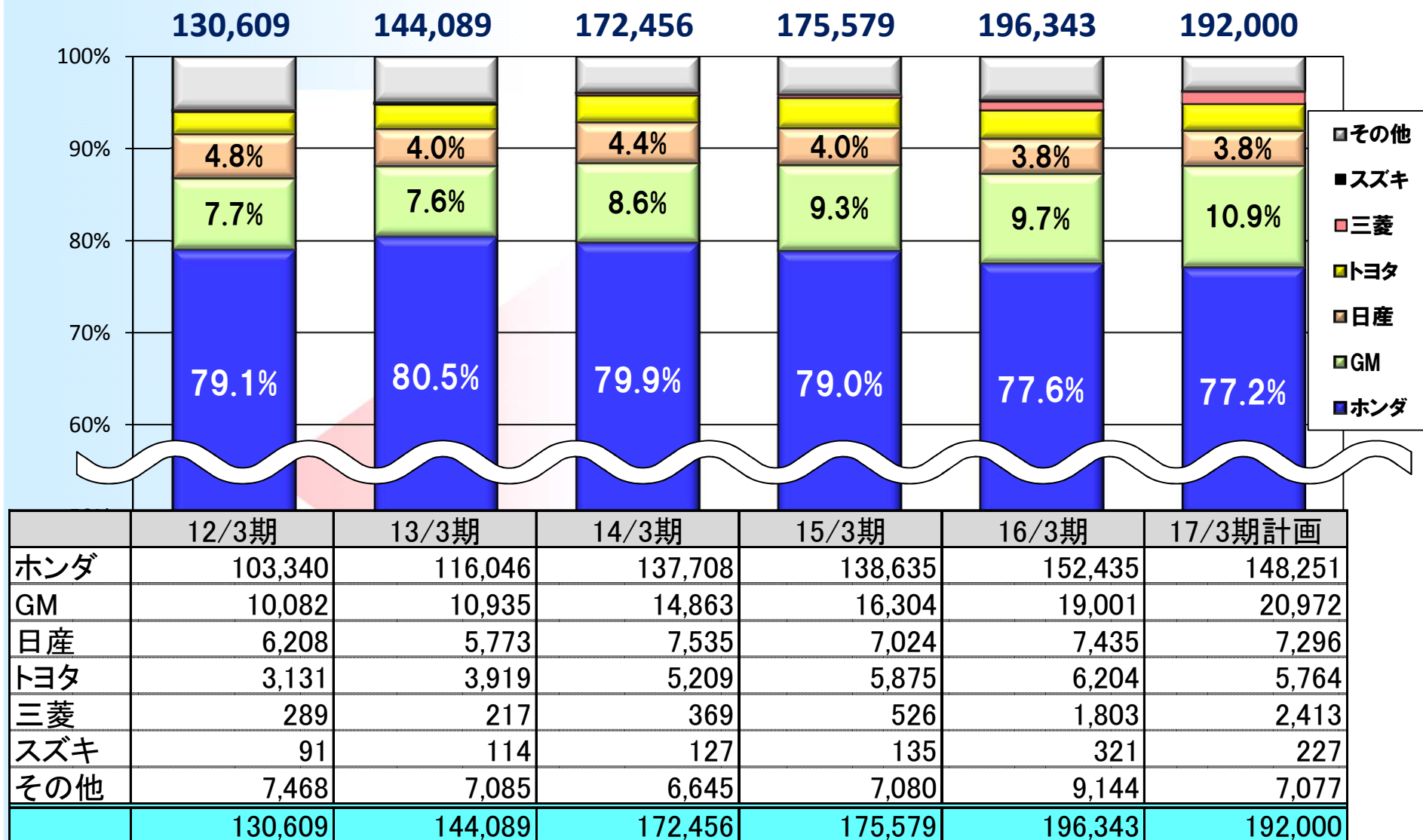
セグメント別営業利益(2017年3月期予想)



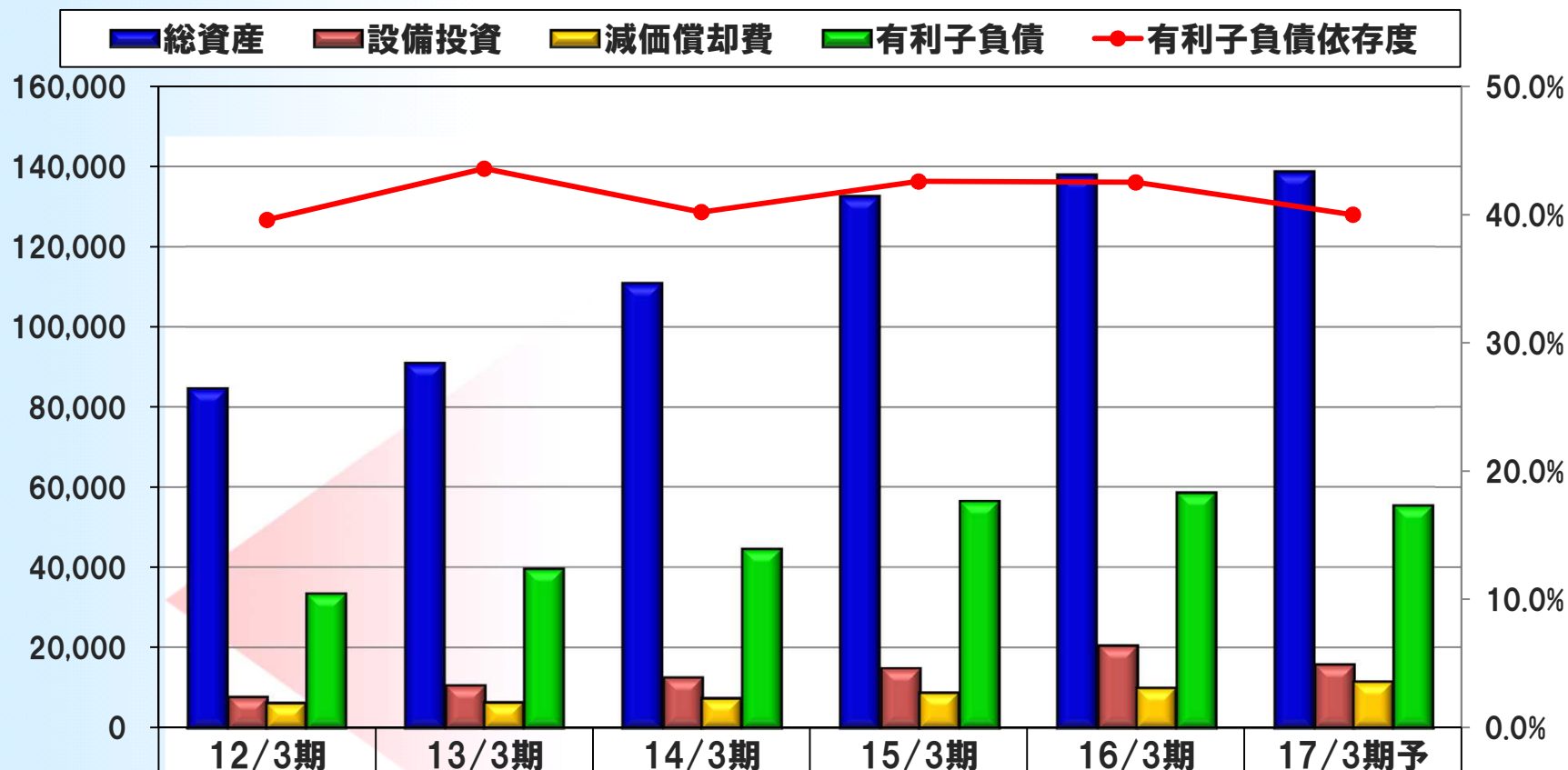
(単位:百万円)

	2016年3月期 実績		2017年3月期 予想		増減額	増減率
	営業利益	地域シェア	営業利益	地域シェア		
日本	381	5.6%	652	10.0%	270	70.8%
北米	4,675	68.6%	3,467	53.4%	▲1,207	▲25.8%
アジア	2,069	30.3%	2,430	37.4%	361	17.4%
合計	7,126	104.5%	6,550	100.8%	▲576	▲8.1%
調整	▲305	▲4.5%	▲50	▲0.8%	255	—
連結	6,821	100.0%	6,500	100.0%	▲321	▲4.7%

得意先別売上高の推移



財務の状況



	12/3期	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期予
総資産	84,796	91,200	111,062	132,697	137,980	138,793
設備投資	7,872	10,696	12,715	14,987	20,578	15,865
減価償却費	6,374	6,544	7,508	8,920	10,081	11,593
有利子負債	33,567	39,786	44,679	56,570	58,686	55,509
有利子負債依存度	39.6%	43.6%	40.2%	42.6%	42.5%	40.0%

2017年3月期予想

	1Q末	2Q末	3Q末	4Q期末	合計	配当性向
2017年3月期 配当予想	—	10円00銭	—	10円00銭	20円00銭	11.0%
(ご参考)前期実績 2016年3月期	—	10円00銭	—	10円00銭	20円00銭	11.4%
前期比 増減	—	—	—	—	—	▲0.4%

配当方針

当社の利益配分に関する基本方針は、業績に基づく利益還元を基本としています。財務体質の強化を図りながら利益の状況、将来の事業展開など長期的な視野に立って皆様への利益還元を図ってまいります。配当性向の当面の目途を親会社株主に帰属する当期純利益の10%以上とし、中間、期末の年2回を基本としております。

1. 決算概要
2. 業績予想
- 3. 企業情報**
4. 経営戦略
5. トピックス



**代表取締役社長
福田 祐一**

会社名	株式会社エフテック
資本金	47.9億円
発行済株式数	15,390,000株
設立	1947年7月1日
本社住所	埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼19番地
従業員数	7,948人(950人) <small>()内は国内単体</small>
拠点数	17拠点(北米8、中国4、アジア4、EU1)
主要取引先	本田技研工業、General Motors、日産、 トヨタ、三菱、スズキ、etc,



2016年3月末現在

主力部品(四輪)



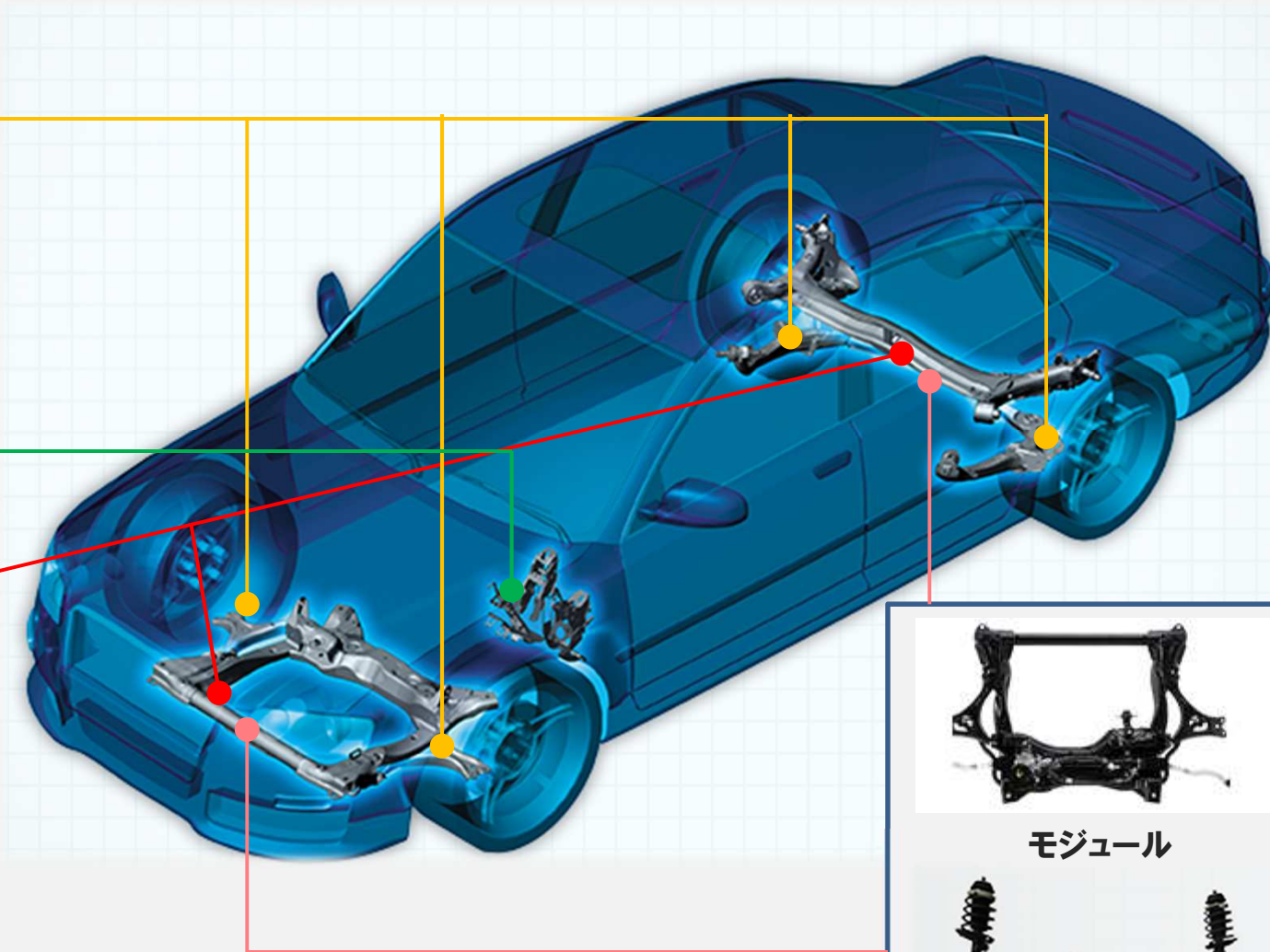
サスペンション部品



コントロール部品



マウント部品



モジュール



シャーシシステム

社是

わたしたちは世界的視野に立ち、高い志と誠をもって価値を創造し、
国家社会に貢献すると共に豊かな未来を築く事に全力を尽くす

エフテック3つの基本精神

1 Challenging Spirit ~挑戦~

➡ 常に卓越を目指すことを奨励する

2 Respecting People ~尊敬~

➡ 人間の尊厳に立脚している

3 Making Profit ~利益~

➡ 利益を上げる事は最も重要な事である

4つの強み

研究・開発力

- 時代の要請に対応した新技術や新製品の開発を日々実現

生産技術力

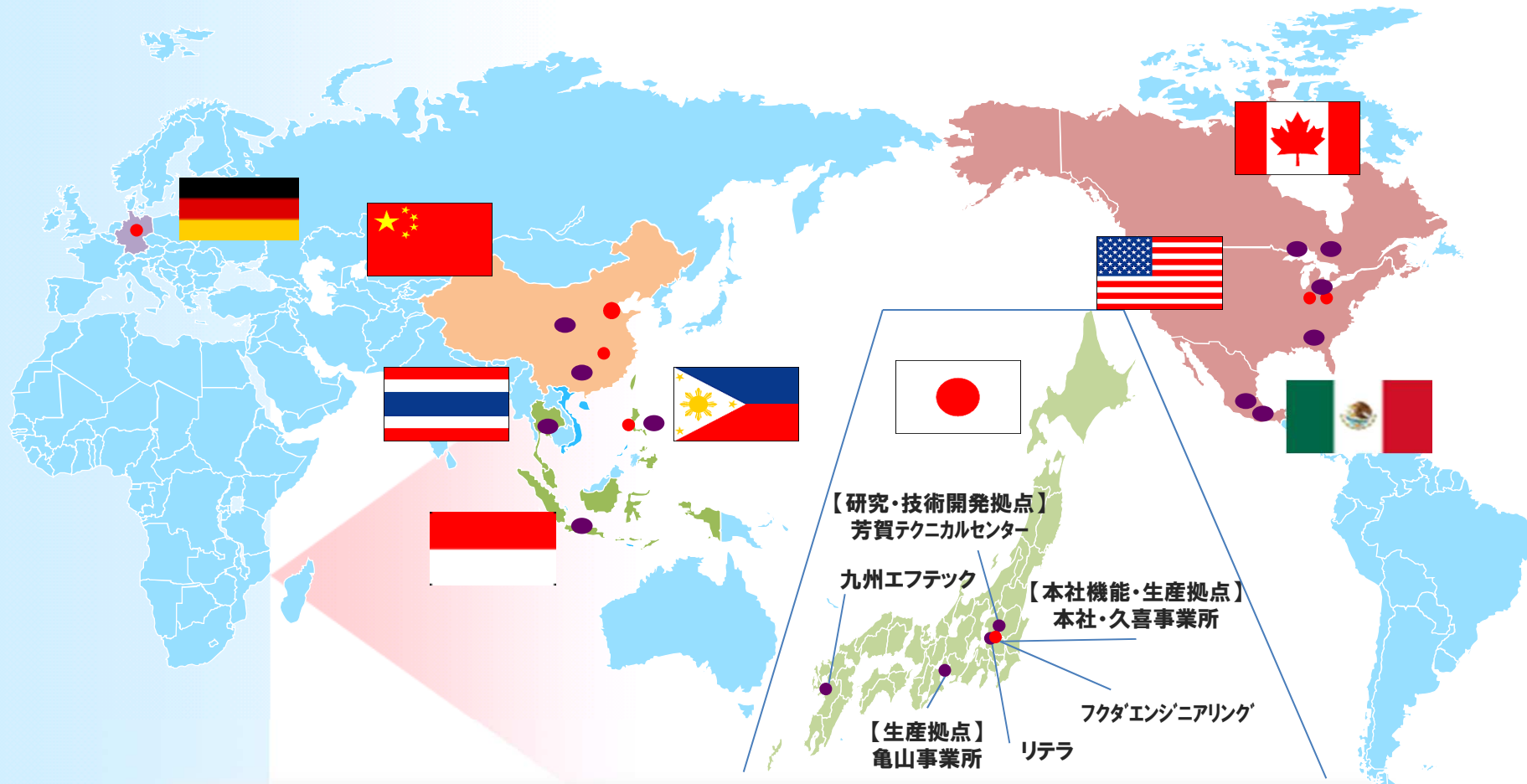
- 経済的で高効率の生産ラインを実現、品質の高いモノづくりを実践

国際競争力

- 世界のOEMへ部品供給を実現すべく、グローバルな事業展開を推進

人間力

- 一人ひとりのチャレンジ精神が新たな領域に踏み出す大きな力に
- 人間尊重の社員教育の実践



生産拠点

北米 6工場
(カナダ・アメリカ・メキシコ)

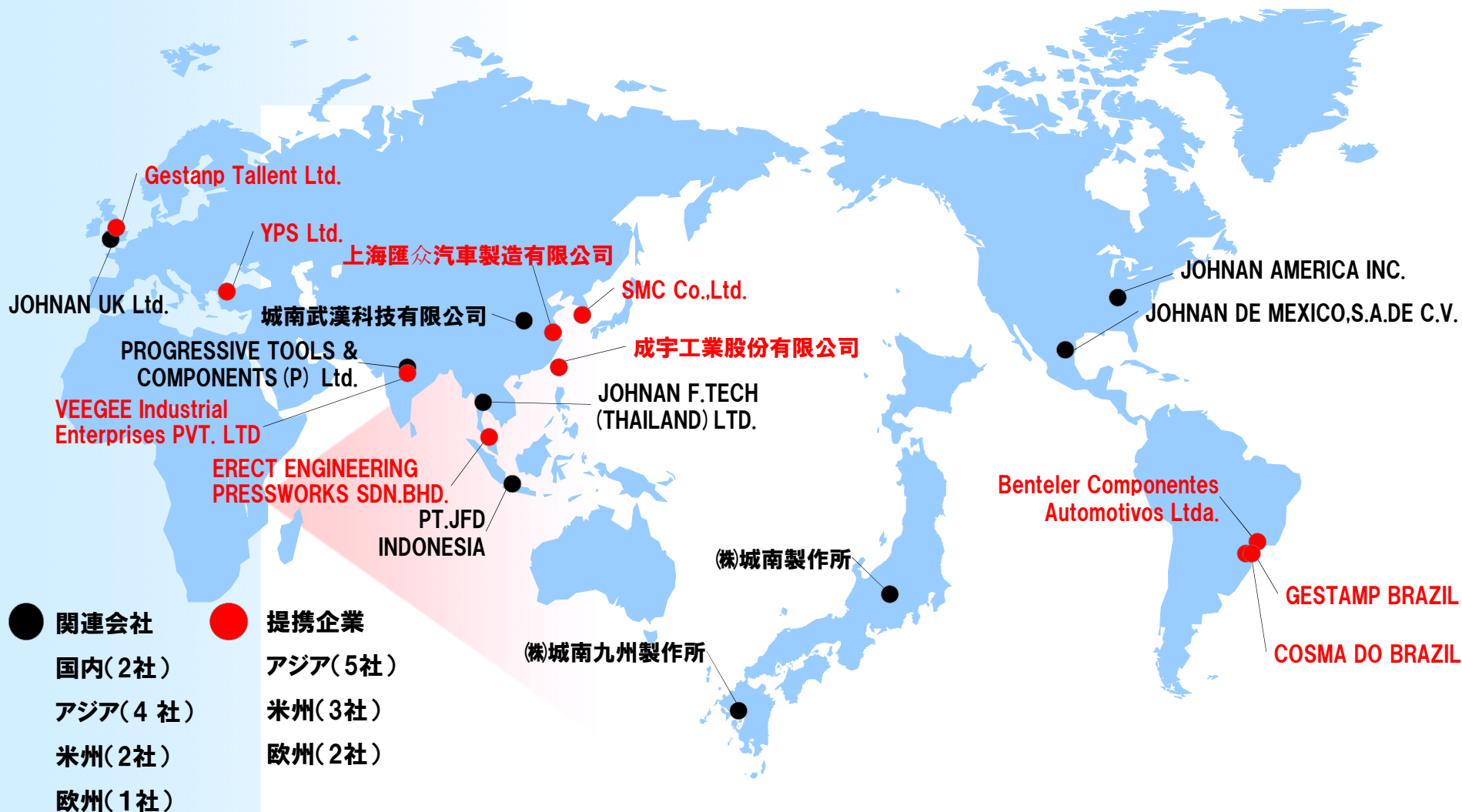
中国 2工場 アジア 3工場
(中山・武漢) (タイ・フィリピン・インドネシア)

研究・技術開発拠点

北米 2拠点 欧州 1拠点
(オハイオ・ミシガン) (ドイツ)

中国 2拠点 アジア 1拠点
(広州・煙台) (フィリピン)

拠点概要③ 関連会社、技術提携企業



7か国・1地域で提携関係を構築し、グローバル機種生産へ最適対応

エフテックの68年の歴史

1947年7月
雑貨玩具部品
製造開始



1947年 雑貨おもちゃ

1959年10月
二輪部品の提案で
本田技研工業の口座開設



1959年当時 HONDA スーパーカブ

1965年10月
四輪自動車機能部品開発と
ホワイトボディ部品生産に着手



1967年式 HONDA N360

1986年10月
F&P Mfg.Inc 設立
海外拠点 初設立



Canada Ontario州
シビック
サスペンション部品

2015年～
海外での拡販を強化し
新たな成長の扉を開く



お客様ニーズに合った
最適部品提供

2014年
GMビジネスをさらに拡大



サブフレーム、ロアアーム
シャーシシステムへ

2012年9月
世界初
異材接合技術 (FSW)
を用いて量産開始



鉄とアルミの
フロントサブフレーム



13M
北米アコード

当社の業容(シャーシ部品開発・生産)



製品の企画開発から量産までの全工程を、独自の一貫加工体制で行なうことにより、圧倒的に競争力の高い製品を、スピーディーに提供。

市場ニーズと各自動車メーカーの要求仕様



強度、剛性、耐久、衝突、軽量、操縦安定性、高品質

設計

最適化設計

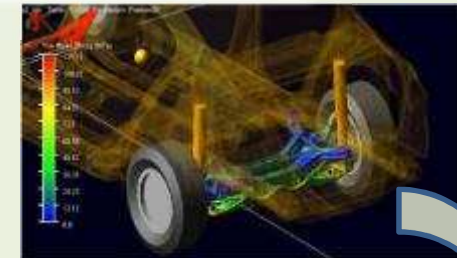
- ・最適仕様で軽量化提案
- ・圧倒的な競争力の実現



解析

ADAMS(CAE解析)

- ・部品単位に指標値化
- ・最適なベストバランス構成部品開発



試験

ロードシミュレーター

- ・サスペンションシステムを実車同等の条件で台上テストを行い、効果的に最適設計を行う



試作

三次元測定

- ・非接触三次元測定機や形状測定機等を用いて製品の精度確認



1. 決算概要
2. 業績予想
3. 企業情報
4. 経営戦略
5. トピックス



代表取締役社長
福田 祐一

会社方針: 「圧倒的な競争力をもつシャーシシステムメーカーになる」

基本事業戦略

1. シャーシシステム体質への変革

- ・シャーシ単体開発から、シャーシ周辺部品も含め複合的に開発(シャーシシステム)する体制への転換

2. グローバルオペレーションへの進化

- ・拠点のグローバル展開
→24時間体制の実現
- ・開発基盤システムの導入
→開発環境のボーダレス化

グローバル
ニーズに
最適に対応

3. 環境対応技術強化

- ・軽量化技術進化
- ・新加工技術
- ・電子化

目標

業績

売上高 2,000億円

営業利益 100億円
(営業利益率5%以上)

有利子負債依存度:30%以下

拡販

- ・欧米系メーカーへの販路拡大
- ・GM売上の拡大
- ・ホンダ以外の受注比率向上

技術

- ・軽量化技術の進化
- ・新加工技術の進化
- ・新素材の加工技術の確立

開発

- ・複合機能モジュール開発
- ・電子化部品の対応
- ・軽量化設計

12次中期進捗状況(2014年～2015年度状況)

目標

61期

業績

売上高 2,000億円

営業利益 100億円
(営業利益率5%以上)

有利子負債依存度:30%以下

売上高 1,963億円

営業利益 68億円
(営業利益率 3.5%)

有利子負債依存度:42.5%

拡販

- ・欧米系メーカーへの販路拡大
- ・GM売上の拡大
- ・ホンダ以外の受注比率向上

- ・欧米系メーカーへの販路拡大中
- ・GM売上高**27.8%**UP(14年3月期比較)
- ・他販売比率前期比**2.3%**UP(14年3月期比較)

技術

- ・軽量化技術の進化
- ・新加工技術の進化
- ・新素材の加工技術の確立

- ・超精密塑性加工技術(FUT-1)の進化
- ・異材接合技術(FSW)
- ・アルミ・樹脂 中空構造

開発

- ・複合機能モジュール開発
- ・電子化部品の対応
- ・軽量化設計

- ・多軸ロードシミュレーターの導入
- ・オブティマイゼーションの導入

単体部品から複合でシステム化



将来

複合でのシステムとして最軽量開発

組み付け完成状態での総合品質保証

最適加工技術の実現

シミュレーション技術を駆使して最適化設計

ブッシュ、ボールジョイントの自社調達化

最軽量、高剛性を両立し、コスト競争力ある単体部品の開発、提案



サブフレーム、サスペンション単体からシステムまでを開発製造し、お客様のニーズに合致した最適形態で供給する。

超精密塑性加工技術 『FUT-1』の技術進化 << F.tech Ultimate Technologies System >>

Step1
スクラップ最小化



改善
TAP工程無人化

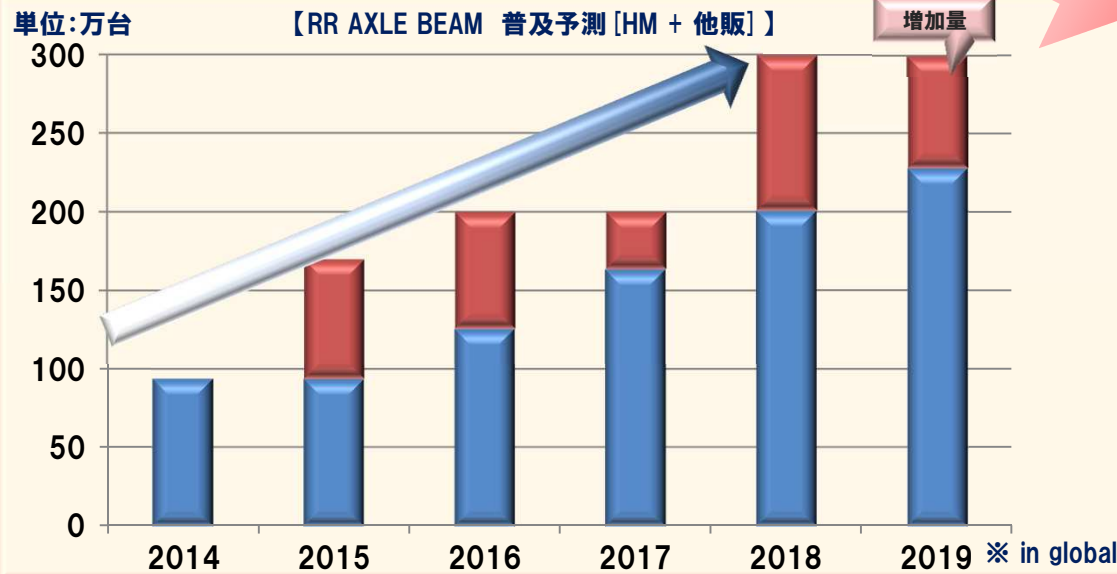


Step2
圧造による軽量化



超精密抜き+圧造
成形技術の確立

Step3
スクラップ流用
+新部品へ



TAP工程
 ~全自動化~
 ~原価低減~

『全自動化一貫ライン』の具現化へ

新機種受注状況

本田技研工業(株)からの新機種受注

新機種受注状況				新機種受注状況			
生産/販売開始時期	2014	2015	2016	生産/販売開始時期	2014	2015	2016
S660		日本	ベタル懸 リアサスペンションアーム	CIVIC	コントロールアーム サスペンション異動部	北米	中国
STEP WGN	フロント	日本	リアアクスルビーム (2WD/4WD) ロアアーム フロントサブフレーム	CIVIC Type-R	フロントサブフレーム	日本/UK	リアアクスルビーム ベタル懸
SHUTTLE	フロントサブフレーム フロントロアアーム	日本	ベタル懸 リアアクセルビーム アンダーロードバス	Elysion	リアアクスルビーム フロントサブフレーム	中国	
CITY/GRACE	ア大	日本	フロントサブフレーム フロントロアアーム ベタル懸 リアアクセルビーム アンダーロードバス	CLARITY Fuel Cell	メンバーフロント リアサブフレーム リアサスペンション異動部	日本	
GREIZ	フロントサブフレーム	中国	フロントロアアーム リアアクセルビーム ベタル懸 アンダーロードバス	NSX	ブレーキベタル	日本	
Odyssey Hybrid		日本	リアアクセルビーム フロントサブフレーム ブレーキベタル	BR-V	ブレーキベタル/クラッチベタル リアアクセルビーム フロントサブフレーム	ア大	アンダーロードバス フロントロアアーム



軽量化と強度・剛性を両立し、高い信頼性を有する。
お客様のニーズに的確に応える事で継続した受注を実現

新機種受注状況(拡販)

トヨタ自動車向け ~INNOVA~

生産台数: 26,400台/年
年間売上: 16.8M Php
生産開始: 2016年3月
(フィリピン/FPMI)



受注部品

PEDAL ASSY. BRAKE



PEDAL ASSY. CLUTC



GM向け ~Cadillac SRX~

生産台数: 415,000台/年
年間売上: 56,025K USD
生産開始: 2016年2月
(アメリカ/FPA)



受注部品

FR CRADLE



FLCAR/L



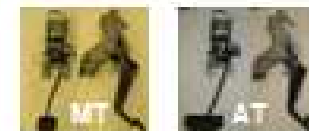
スズキ自動車向け ~ERTIGA~

生産台数: MT 64,000台/年
AT 32,000台/年
年間売上: Rp 11,645 B/年
生産開始: 2015年7月
(インドネシア/FTI)



受注部品

PEDAL ASSY. BRAKE
MT/AT



GM向け ~Camaro~

生産台数: 100,000台/年
年間売上: 11,100K USD
生産開始: 2015年10月
(カナダ/FPC)



受注部品

RR CRADLE



足廻り専門メーカーとしての提案力、対応力、技術力、品質保証
⇒各OEMから高評価を獲得、グローバルで受注拡大を図る

1. 決算概要
2. 業績予想
3. 企業情報
4. 経営戦略
5. トピックス



代表取締役社長
福田 祐一



FF 量産車最速

CIVIC TYPE R

2015年 07月 欧州デビュー

FF量産車最速のシャシへの要求

超高剛性マウント & サス

ワンランク上の製品精度

ヨーロッパ市場が求める高水準操行性能をエフテックのみが達成
高精度製品の生産を日本で行い供給



HONDA of The UK から高い評価を頂く

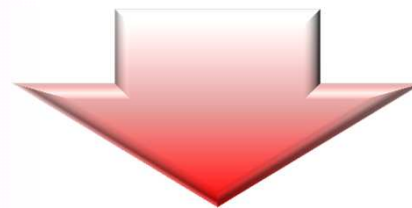


新型 CIVIC

デザイン
走行性能
燃費性能
安全性

コンパクトクラスの
新たなベンチマーク
を目指す

開発提案力と生産技術力、量産管理体制を現行Type-Rで実証



日本の高い技術力、量産品質保証力が
得意先より評価され、Type-Rに続き日本生産が決定

新たな技術支援先企業



グローバル車種に対応し、世界最適部品供給体制に向けて提携

インド 技術提携企業 		マレーシア 技術提携企業 	
会社名	VEEGEE INDUSTRIAL ENTERPRISES Pvt. Ltd.	会社名	ERECT ENGINEERING PRESSWORKS SDN. BHD.
設立	1990年	設立	1998年
従業員	1,400名 	従業員	261名 
主要製品	各種プレス加工、サブアセンブル、チューブ/パイプ溶接など	主要製品	FR SUBFRAME、RR AXLE、CONTROL ARM、ENGINE MOUNTなど
主要顧客	ホンダ、スズキ、GM、TATA、アイシャ、オートリブ、シュナイダーなど	主要顧客	プロトン、ベルドア、ホンダ、トヨタ、日産、三菱、いすゞ、ダイハツなど
背景と狙い	同社はインドで最大の市場規模を持つマルチスズキ他、多くのOEMと取引している部品メーカーで、インドの大地域に対する位置づけは今後増大していく中、同社との取り組みも強化していく。	背景と狙い	得意先のシェア拡大に伴いマレーシア特有の課税構造を考えると現調化は必要不可欠。同社の主力OEMは国策会社のプロトン社であり、今後のパートナーとして付き合いしていく。

小規模生産国では現地技術支援先へ**技術供与**し、**試作イベントから量産まで**を現地にて徹底教育指導

2016年4月、アメリカホンダより
F&P Groupは品質賞、搬入賞、パーツ賞を受賞

品質賞



量産部品の品質レベル

F&P Georgia

搬入賞



量産部品の定時定点搬入率

F&P America
F&P CANADA

パーツ賞



旧型部品の搬入率や品質等で評価

F&P America
F&P CANADA

グループ全体の品質レベルを更にワンランク上げる為に
⇒日本のノウハウを移植し、世界TOPレベルの品質の実現を目指す

ISO50001※
要求事項

亀山事業所
EnMS

ISO50001
ファミリー規格

エフテック
省エネノウハウ

Global Ftech Energy Management System

(エフテックグループ共通エネルギーマネジメントシステム)

亀山から世界へ 2015年～海外水平展開 開始



CG・コード対応実施状況



当社はCG・コードExplain項目に対し、真摯に取り組んでおります。

コーポレートガバナンスコード	73項目
Explain項目	8項目
対応実施項目	6項目

Explain 8項目

- ・招集通知の発送前の電子的な公表
- ・議決権電子行使と招集通知の英訳
- ・取締役選任、指名についての説明
- ・中期経営計画の進捗報告・検証・コミット
- ・経営陣報酬のインセンティブ
- ・独立社外取締役の複数名選任
- ・任意の仕組みの活用(諮問委員会)
- ・取締役会全体の実効性分析・評価の概要

対応状況

- ・**実施** 招集通知完成時点でHPへ掲載予定
- ・**実施** 議決権行使の電子化のみ実施
- ・**実施** 招集通知参考書類に記載予定
- ・**実施** 新中計策定及び公表を今年度中予定
- ・**未実施** 役員持株会により自社株を取得
- ・**実施** 本年株主総会にて選任予定
- ・**未実施** 未定
- ・**実施** 本年より取締役会評価を実施済み

ホームページが2015年7月に完全リニューアルいたしました
ホームページを活用し適時適切な情報開示を行っています

<http://www.ftech.co.jp/>



コーポレートガバナンス

IRカレンダー

IR資料館

電子公告

株式情報

わたしたちの行動指針



<http://www.ftech.co.jp/company/>



本資料で記述している将来予測及び業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、様々な要因の変化により実際の業績と記述としている将来見通しは、大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。

IR情報のお問い合わせ、取材申し込みは
株式会社エフテック 管理本部 総務ブロック/経理ブロック
代表TEL:0480-85-5211 Mail:webmaster@ftech.co.jp